

中学入試分析

2023年度中学入試、各教科の入試分析です。過去問研究の際に有効活用してください。

国語

「聞いて解く問題」は内容が難しめではありましたが、受験生全体がよく聞き取れていました。また、六の漢字の問題も各回ともによくできていました。一方で、五の語句の問題や記述問題は正答率が低かったです。特に記述問題では、無回答は少なかったものの、設問の意図に沿っていない回答が多く見受けられました。日頃から言葉への関心を持つと同時に、設問をよく読み設問に沿った回答をする練習をしてほしいと思います。

算数

聞いて解く問題の正答率は実施日によって異なりますが、合格者の平均点は高く、差がつきやすいものとなっています。日頃から問題を音で聞いて計算処理する練習が必要です。大問2、3は合格者と不合格者の平均点に大きな差はありませんでした。基本的な問題はおおむね全受験生が対応できていました。しかし、大問4、5の応用問題は合格者と不合格者で正答率に大きな差がありました。大問4、5の正答率を上げることが重要となります。そのために2つのことを意識してほしいと思います。1つ目は日頃から大問4、5の類題を演習することです。2つ目は大問1、2、3を迅速に解き、大問4、5に十分な考える時間を確保することです。

理科

昨年から引き続き「聞いて解く問題」を出題しました。受験者平均が71～77%でしたので、十分に対策をしてきているようです。例年に比べて問題数を厳選してきたためか、記述の問題も空欄が少なく時間をかけて答えている印象がありました。

全体的に差がついたのは、聞いて解く問題では植物の生育についてさまざまな情報を聞き取り、問いに必要な情報にあてはまるものを整理して答える問題や、気象の問題では複数の図表から必要な値を取り出して図にあてはまる時刻を読み取る問題、またばねの問題でも複数のばねのグラフから必要な値を導いて答える問題などが該当しました。

このように単に知識や計算だけでなく、多くの説明文や図表などの情報を処理して、必要な事柄を分析するチカラが大切になります。

言語技術（特色入試）

本年度入試は、それぞれ 3 つの小問から構成される大問を 2 題出題した。各大問の小問 1・2 は文章や図表といった様々な資料の正確な読み取りを主眼としたもので、小問 3 は資料を踏まえて自らの考えを文章で説明するものであった。

資料の情報量を増やし、出題に一ひねりを加えたことで、資料の読み取り問題の正答率は例年よりも低くなった。自らの主観や先入観を排して、客観的に資料に向かう姿勢が必要である。また、自らの考えを説明する設問については、難易度はさほどではないが、時間が不足して考えを示しきれない答案が多く見られた。限られた時間の中で自らの考えをまとめきる練習を重ねておくことが効果的だと考える。

英語（特色入試）

平均点が 60 点台後半に落ち着いた中で、新形式のリスニング・ライティング混合問題においては、英語で自分の意見や考えを表現しようという受験生の積極的な姿勢を伺うことが出来た。ほとんどの生徒が 50 字以上で書くことが出来ていた。リスニング問題では、一度で情報を把握・整理しなければならないため、高い集中力が必要である。リーディング問題では、理系要素を含んだテーマ(今回はバロメーター)を出題した。空気圧の発見、気圧と天候の関係などが含まれた英文となった。各段落においてのポイントを確実に抑えることが大事である。来年度は試験時間が 40 分(10 分増加)となる。